

敦賀港から世界へ

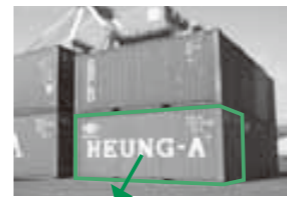
敦賀〜釜山 定期コンテナ航路が増便。

敦賀港〜釜山港（韓国）の定期コンテナ航路が、二月十一日から週三便に増便。約二年半ぶりに、外国との定期航路が週三便体制となりました。

ここでは、定期コンテナ航路について、今までの経緯、増便の背景、そして今後の展望について取り上げます。

定期コンテナ航路って？

貨物をコンテナに入れて運ぶ航路で、決まった期間で、決まった寄港地を通ります。取扱量の単位はTEUを使い、1TEUは20フィート（約6メートル）のコンテナ1個です。敦賀港では、今まで中国・韓国との間で、コンテナ航路を開いてきました。



コンテナ（1TEU）

今までの経緯

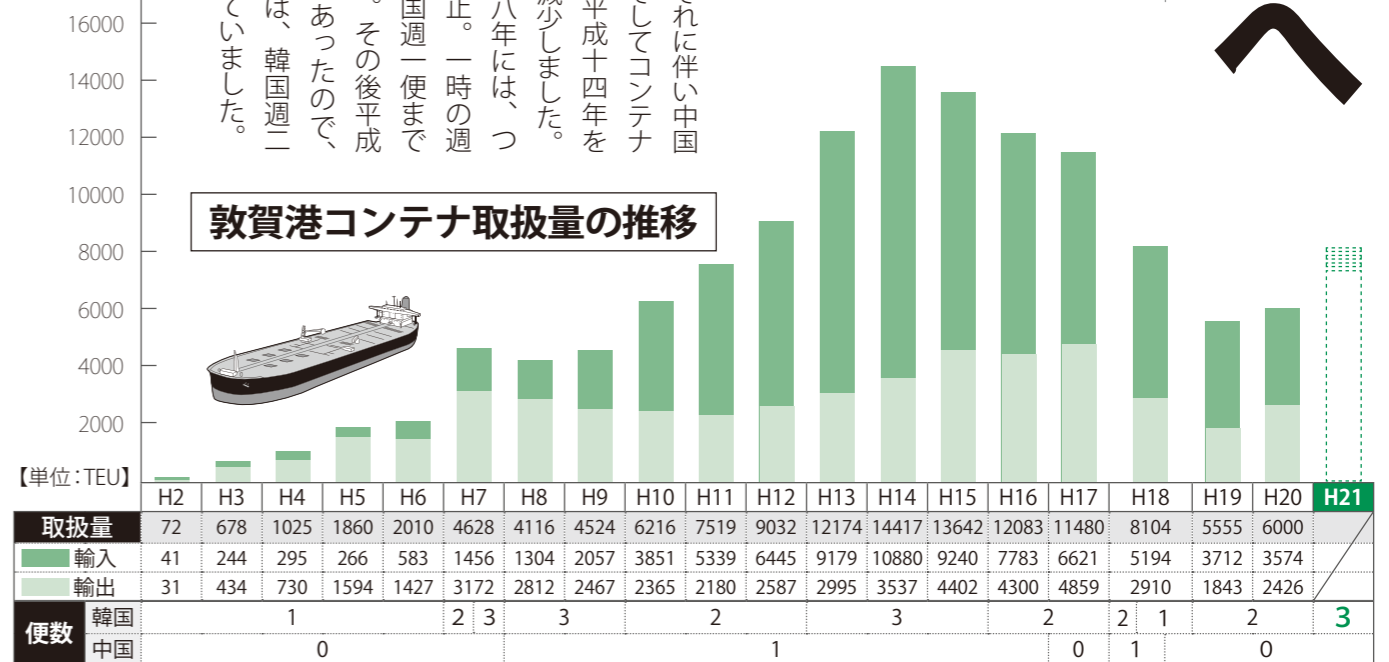
敦賀港の定期コンテナ航路は、平成二年の韓国（釜山）航路開設以来、着実に便数、取扱量を伸ばしてきました。平成八年には中国（丹東）との間に初めて定期航路が開設。主に、丹東で製造されたブラウン管テレビが敦賀港に運ばれ、取扱量は格段に増えていきました。

その後、中国において、大連、青島、上海と次々に航路が開かれましたが、平成十四年頃から、ブラウン管テレビの需要減で企業が

輸入量を縮減。それに伴い中国航路の取扱量、そしてコンテナ貨物の取扱量も平成十四年をピークに徐々に減少しました。

そして平成十八年には、ついに中国便が廃止。一時の週四便体制が、韓国週一便まで落ち込みました。その後平成十九年に増便があったので、今回の決定までは、韓国週二便の体制になっていました。

敦賀港コンテナ取扱量の推移



今回の増便について

増便を目指し、市では、県、敦賀港貿易振興会とともに、船会社や荷主となる企業に対し、長年セールス活動を行ってきました。また、5万トン級の大型船も接岸

できる「多目的国際ターミナル」を鞠山南地区に整備（平成二十二年度全面供用）し、受け入れ態勢も整えてきました。

こうした活動の効果もあり、これまで大阪、神戸港などを利用していた近隣企業が、敦賀港も利用するようになりました。また、地元

企業の東洋紡敦賀事業所が、昨秋に敦賀港の利用拡大を発表。輸出入量を、五年後に十倍にする計画を打ち出しました。

このように、徐々に企業側の需要が高まり取扱量が増える中、今回、ついに船会社の興亜海運株式会社（韓国）が増便を決めました。

今後もその優位性を生かし、中国航路の復活や、ロシア航路の新規開設、また、世界のハブ港である釜山港との航路を強化し、北米や欧州向け貨物の増加も目指していきます。

世界から敦賀港へ。そして敦賀港から世界へ。さらに多くのものと人が行き交う国際港を目指し、市では今後も、セールス活動や港の整備に取り組んでいきます。

今後の展望

今回の増便は、世界的な景気悪化で輸出入量が減っている中、日本海航路の重要性が評価されたものと考えています。北東アジアと日本を短距離で結ぶ日本海航路は、大阪港や名古屋港など太平洋側の航路と比べ、効率的な物資の運送が期待されます。

※ハブ港

海上輸送の中継地点となる港のこと。ここで、コンテナ貨物は降ろされ、別の船で他港へ運ばれたりします。



新しい運行船 ヒュンガー ジャカルタ 号 HEUNG-A JAKARTA 号

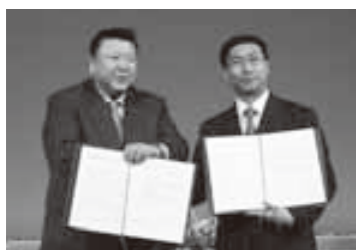
- ▶船会社：興亜海運（株）
- ▶積載量：653 TEU
- ▶運行スケジュール：釜山（火）-敦賀（水）-金沢（木）-苫小牧（金）-釜山（月）

敦賀港に入る船としては過去最大級

▶今までの航路

- ① 船会社：長錦商船（株）
釜山（日）-新潟（火）-直江津（水）-富山（木）-敦賀（木）-釜山（土）
- ② 船会社：興亜海運（株）
釜山（日）-敦賀（月）-金沢（月）-境港（火）-釜山（水）

HOT NEWS 「日本海横断航路開設」に向け前進！



宣言書を見せる河瀬市長と姜虎権（ジャンフチュエン） 瑠春市長

瑠春市（中国）と共同宣言

中国東北部では現在、日本企業の誘致が進められており、輸送手段として日本海横断航路の開設が求められています。そこで市では、航路の新規開設を目指し、2月20日に、東北部の都市である瑠春市と共同宣言を発表しました。

この宣言により、両市共同の作業部会の設置が決まり、航路開設に向け一歩前進しました。